

発達支援研究所ホームページ <https://smart-kids.co.jp/labo/>



スマートキッズ
ジュニア浦安

シンボルマークは皆の投票で花火に決めました。
皆で協力して折り紙を一枚一枚丁寧に貼って完
成しました。

好きな曲の演奏ができたらいいな：「フィガーノート」の紹介

明星大学名誉教授 阪井 恵

私は大学の教員養成課程で、小・中・高等学校の「音楽」の先生の育成に携わってきました。10年ほど前、「音楽の授業が苦しい・大嫌い・学校まで嫌になる」という青少年との出会いを得て、それまでの自分の視野の狭さ、無知と無配慮を恥じるとともに、遅ればせながら発達障害について学ぶようになった次第です。本稿では、この青少年が率直に語ってくれた音楽授業でのネガティブな体験に基づき、(1)五線譜を読むということ (2)「フィガーノート」という五線譜に代わる選択肢について取り上げます。

(1)五線譜を読むということ

「音楽の先生が目指していることって、一体何なのか!？」という厳しい問いを私に突き付けた皆さんは、発達をサポートしているNPOに集っていました。知的にも対人コミュニケーションにも問題がないのに、成績が取れない、何かおかしい……気づかれにくかった発達性ディスレクシア(以下、DD※と略記します)があると考えられ、このNPOを通じて自分の特性に対する正しい認識を得るとともに、適切な学び方のサポートを受けるようになった人たちです。DDの現れ方はひとり一人異なるものの、皆さん様に、五線譜を見ながら説明を聴いたり、演奏したりすることを求める音楽授業において、ひどく排除されていると感じていました。音符に「ド・レ・ミ」などの文字カナをふるにも長い時間がかかったり出来なかったりする、先生は全く分かってくれない、やる気を出しなさいと叱咤されることもある、合奏などの活動には結局参加できない、というのです。まさに「わかってくれない」先生、この人たちを排除する側に居た先生であった私は大きなショックを受け、もはや以前の立ち位置には戻れなくなりました。

DDのある人は文字情報の判読などに苦労がありますが、五線譜は、文字よりずっと複雑な記号システムです。音韻の処理だけでなく、リズムや和音を読むためには空間の処理も必要です。さらに様々の記号が絡み、幾つもの情報を同時に処理しなければなりません。そしてそこに書きつけられた「音楽」を読みとって脳内に響かせ、身体に信号を送って歌や楽器の演奏を実現するためのものなのです。

学校の音楽教育はこのようなことを考慮してきませんでした。教科書やプリントの五線譜を見ながら展開する授業、楽譜に沿った一斉の音出し指示、その演奏スキルに基づく成績評価など、配慮に欠けることがいささかの反省もなく行われています。それが一部の人を学びから排除し、結果的にその人たちの自尊感情を著しく傷つけてきたことでしょう。

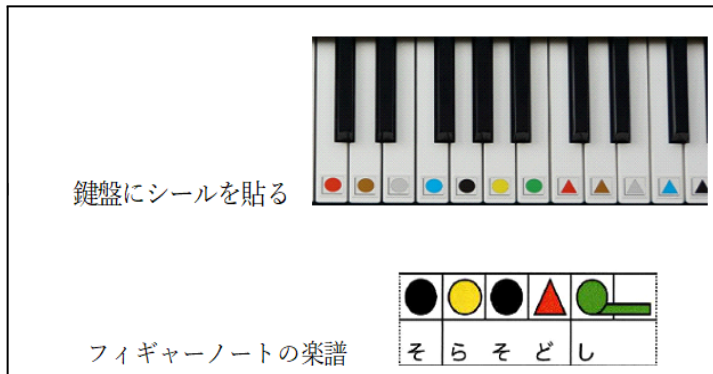
五線譜を、学校での学習内容とする目的と扱い方を、再検討しなければいけません。私は、五線譜の基本的な仕組みを知ることと、これをスムーズに読むスキルを身に付けることは、全く別のこととして考えるべきだと考え、発信しています。

※ DD(ディスレクシア)と五線譜が読めないことには、非常に深い関係がある。ディスレクシアの人が五線譜を読むときに感じる難しさを、専門用語で「ディスムージア(Dysmusia / 楽譜識字障害)」とも言う。

(2)「フィギュアノート」：五線譜に代わる選択肢

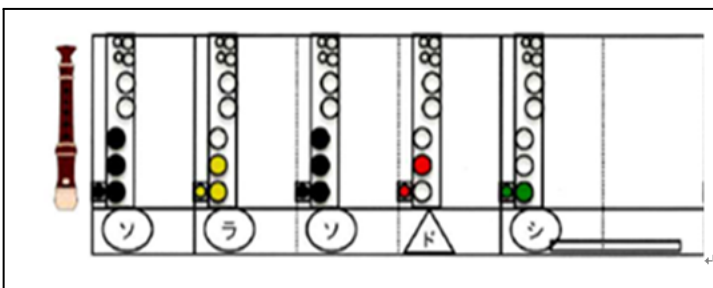
好きな曲を、何らかの楽器で演奏してみたいと思う人は多いことでしょう。楽譜を読むストレスがほとんど無く、マイペースで練習ができれば嬉しい！ そのような希望が叶うこと、またDDなどがあっても学校で楽しく音楽活動に参加できることを願って、現在「フィギュアノート」の普及に取り組んでいます。フィギュアノートというのは、1996年にフィンランドで開発された、色と形による楽譜システムです。ピアノなどの鍵盤楽器であれば、音符と同じ色・形のシールがセットになっているので、それを鍵盤に貼ります。図1の例は、有名な「Happy Birthday to You」という曲の冒頭部分ですが、視覚で捉えた音符と同じ色・形のシールを貼った鍵盤を弾けばよいのです。

図1



これだけなら、鍵盤を光らせて弾く音に導く市販のキーボード(電子ピアノ)と変わりませんが、フィギュアノートの開発者は、音の名前を表す色と、様々な楽器の「タブ譜(楽器の略図を使って示す楽譜)」を組み合わせたものも作成しています。リコーダー、ギター、お箏、三味線、ドラムなど、小・中学校の合奏で使う楽器の演奏に対応できて、大変役に立つツールと言えます。図2の例は、同じく「Happy Birthday to You」の冒頭部分のリコーダー用楽譜です。

図2



フィギュアノートは、[\(社福\)あすなろ福祉会](#) が日本でのプロモーション権を買いとり、その後、学校や一般の音楽教室への普及を期して[\(一社\)フィギュアノート普及会HappyMuse](#) が、全面的に権利を託されています。特にお伝えしたいのは、フィギュアノート普及会が、小学校の音楽教科書の全ての演奏用楽譜を、フィギュアノート版に作り直したものを準備していることです。上述の青

少年たちは、五線譜に「ド・レ・ミ」などの文字カナをふるのはむずかしかったのですが、「フィギュアノート版があれば、リコーダーや、その他の合奏のパートを、自分で、ゆっくり練習できる」と言っています。自分で、意欲をもって練習すること、これこそ本物の学び、応援すべき学びではないでしょうか。

普及会の願いは、フィギュアノートが合理的配慮の対象者にだけ認められるのではなく、「教室にはフィギュアノート版も置いてあり、状況に応じ、使いたい人は選んで使ってよい」という在り方です。自分の特性に合った方法を自ら考えて学ぶ姿は、時流にあって奨励されていくことが確実です。そのことを視野に入れ、各方面に働きかけていきます。

尚2021年に、[フィギュアノートの啓蒙ビデオ](#) (JSPS科研費20K02865の助成による)を作成しました。DDがあるという数名の青少年が顔出し出演を快諾してくださり、自分の特性について語り、フィギュアノートが役に立つ様子を披露しています。ご視聴いただければ幸いです。本稿ではフィギュアノートの実際に関して、ごく基本的な事項のみ書きました。普及会のホームページを是非ご覧になってください。

<プロフィール>

阪井 恵 (さかい めぐみ) 明星大学名誉教授 東京芸術大学大学院音楽研究科修了 学術博士

明星大学教育学部、国立音楽大学音楽学部等で、音楽科の教員養成に長く携わる。『音楽授業のユニバーサルデザイン』

(2018, 明治図書)などの著書、論文多数。学校現場や民間の団体と連携しながら、インクルーシブな音楽科教育の在り方を模索すると共に、その実践ができる教師の育成に取り組んでいる。